



建前か本音がわからず不安になってしまう

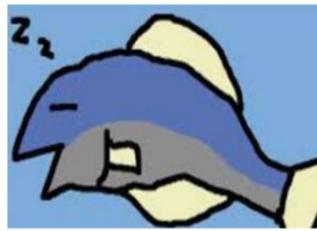
建前と本音の区別がつかず、困ってしまいます。先日知人の家に行ったとき「ゆっくりしてってね」と家族の人に言われ夜までいたら「もう暗いけど大丈夫？」って心配されてしまいました。言葉のまま受け取ってしまうので本音がわからず、迷惑を掛けているんじゃないかと不安が付きません。

建前(たてまえ)がわからず、不安が付きにくい

名言との対話

その悩み あの人だったら、どう語るか

旅人A…建前とか社交辞令(しゃこうじれい)ってやつだね。正直、面倒くさいなあって思ったり、建前抜きの「本音」で語った方がいいんじゃないかって考えることもあったり。でもあるとき、社会学者のこんな言葉に出会ったんです。社会学者M…感情的でもあり、未熟でもあり、欲求に突き動かされる私たちが個人の本音などより、互いの権利を侵害(しんがい)せず節度(せつど)を守ってやりとりするために人々がつくり上げた建前のほうがよほど大事なのです。旅人A…建前って言ってしまおうと印象がよくないけど、そこには心配りや思いやりがあるかもしれないね。建前は、本音や感情を丁寧(ていねい)な言葉や笑顔でふんわりとくるんでラッピングしたみたいなものって言っている人もいました。このラッピングが自分と相手の両方を守ってくれるってことかな。旅人B…本音ばかりだとお互いを傷つけることが多くなってしまいかもね。日常生活で本音にこだわる必要はあまりないし、みんなもそこまで気にしてないと思う。曖昧(あいまい)なままでいいこともある、と思うようになりました。心配りにあふれた社会って考えればいいかも。



私はいわば「体力のないマグロ」。

「やりたいことが見つからないと、どんな気分になりますか?」 Yさん「やりたいことがない」と、ムダなことを考えて落ち込んでしまうのではないかと不安になります。なので、動いているか寝ているかのどちらかしかなく、体力のない「マグロ」みたいなんです。 Mさん「小説を書くこと以外にやりたいことがないというのが実際です。小説を書くネタになるようなことを経験した方がいいのに、特にやりたいことがなくて困っています。」

やりたいことが見つからない「不安」と「幸せ」

インタビュー

くま子の部屋【第7話】

本誌コラム執筆者 Yさん&Mさん

「やりたいことが見つからないとき、どうにかして見つけようと思いませんか?」 Yさん「見つけようと思っても、部屋中を歩き回りながら考えています。それも、独り言を言いながら。じっとしているのが苦手なので...」 Mさん「以前は「何かしなきゃ」って焦(あせ)りがありました。趣味ってどういうものがあるのか調べてみたり。でも、無理に見つけようとするのもどうかな、と思うようになりました。」 「本当にやりたいことなのかと思うことはありませんか?」 Yさん「今取り組んでいる校正の勉強については、全くないですね。時間に追われて、そんなことを考える暇がないというのがありますね。 Mさん「やりたいことなのだろうかと思っただけでいいんです。でも、向いているのかな、やり続けているのかな、と不安に思ったことはありません。それでも続けているのは「それ以外でできることは、何もないから」なんです。 Yさん「私は、根拠のない自信ってやつですかね。「得意なことを選べば、できる」という思いです。YDK(やればできる子)ではないので、やりたいことが見つからなくても幸せでいるには?」 Yさん「これがだめだったらあれをやる、というような手順を考えるようにしています。そうすることで私は、楽なんです。 Mさん「やりたいのにできない、というのがつらいんです。やりたいことが見つからないという方が多いと思います。文章を書くのをやりたくなくなれば、毎日無事に生きているだけで幸せだと思います。それでいいんじゃないかって思います。」



熊谷市のホシカワカフェ。主なメニューはパンケーキやコーヒードリンクです。パンケーキのかぎりの花はやや苦みがありませんが、なんと食べられます。また、夏限定ですが、かき氷もあります。量は大盛りです。おすすめは、いちごかき氷です。いちごかき氷は果肉がたっぷりです。ぶだつたぼよ」 (賀藤 祥子) 所在地:熊谷市星川1丁目77 「パンケーキは米粉の味が効いていて、いちごかき氷は果肉がたっぷりです。ぶだつたぼよ」

ビイ散歩



「コラム」自問自答

(筆者:結城 雪)

「親父(おやじ)のすねかじり。いいねえ親父が太くて」。先日の法事(ほろじ)で、遠い親戚(しんせき)から言われた言葉だ。それは、かつての私からの言葉でもあった▼働いて、稼いで、そのお金で生活する。学生の頃の私は、それが当たり前だと思っていた。そして、働けないという世界を知ろうとしなかった。その後私は就労につまづき、働けない世界の住民になったわけだが、もし働けていたら、私もその親戚と同じようになっていただろう。しかし、いまの私にとっては、それこそ非日常かつ理想▼どうして自分は働けないのだろう。ずっと自分に問いかけてきた。その答えがやっと出た気がする。きつと、素敵(すてき)な人になるためのだろう。私はこの先、働きたい。そして、働いてなお働けない世界を覚えていければ、その私は、つまづかなかった私より魅力的(みりよくてき)であろう▼親戚には親戚の世界がある。私には私の世界がある。ならば、私は親戚のいる世界に発信できたらと思う。「遠まわりって、いい財産だよ」。

「コラム」自問自答

(筆者:みなと)

今月のテーマは「遠まわり」。考えてみるまでもなく、私の人生は遠まわりばかりだった。もっと早くチャレジョブに通っていれば。もっと早く発達障害だとわかっていれば。考え出したらきりがなく、後悔(こうかい)ばかりがつのる。「遠まわりしたからこそ見ることできた景色もある」なんてキレイゴトも言いたくない。私の道は、どうして遠まわりばかりなのだろうか▼そんなことを考えていたら、あるアニメのセリフを思い出した。「寄り道、脇(わき)道、まわり道、しかしそれらもすべて道」。そして彼女はこう続ける。「私が歩く私の道は、私が決める私だけの道。たとえそれが遠まわりだとしても、これは嘘偽(うそいつわ)りのない私の思い、私のわがまま、私の道です」▼近道も遠まわりも「道」は「道」。私が歩いて来た道に変わりはない。私に足りなかったのは、それが自分の道だといえる覚悟だったのかも知れない。いくつになっても私に大切なことを教えてくれる。ありがとう、プリキュア。

【気まぐれ欄】今月の『クスツと』マンガ

※お笑い好きメンバーによるツッコミです!

【コメント作者:はりべじ】



パワハラ退散!



ぼくは、犬になって、戻ってきたけど、相変わらず、お兄ちゃん、青が好きなんだね!

【気まぐれ欄】今月のおすすめ本【Book Review】

※読書好きメンバーによるおすすめ本の「書評」です



『アルジャーノンに花束を』 著者:ダニエル・キイス 出版社:早川書房(ハヤカワ文庫) 発行日:2015年3月13日

【評者:A.Y】

知的障がいをかかえるチャーリーが大学の先生に頭をよくしてもらってお話。手術により知能は向上していき、いろいろなことを理解していく。知能は向上していくが情緒(じょうちょ)が成長していないことで、葛藤(かつとう)に苦しむ。同じような手術を受けたネズミのアルジャーノン。彼も知能が上がり、迷路が複雑になっていても、簡単に解いていく。チャーリーの知能が、周囲の人の理解が及ばないものになったとき、それらの人びとはどのように反応するのか?ある障がいを持つ者として彼を見るようになってしまった、とも読み取れる。知識を得たことでチャーリーはいろいろ理解するが、それは果たして幸せなのだろうかと考えさせられる、不朽(ふきゅう)の名作。